



調査区全景

## 序

本県には、これまでに発見された約4,900か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、日本海沿岸東北自動車道をはじめとする高速交通体系の構築や国道の整備は、地域が活発に交流・連携する秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものであります。本教育委員会ではこれら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、日本海沿岸東北自動車道大館北～小坂間の建設に先立つて、平成18年度に大館市において実施した野崎遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。調査により、縄文時代早期や平安時代の竪穴住居跡、室町時代の掘立柱建物跡などが検出され、これらの時代に集落が営まれていたことがわかりました。

本書が、ふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行にあたり、協力をいただきました国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所、大館市教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成20年3月

秋田県教育委員会

教育長 根 岸 均

## 例　　言

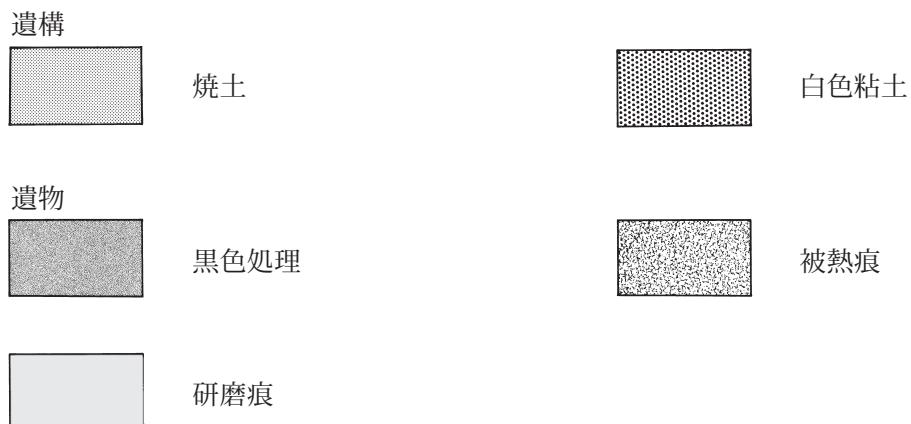
- 1 本書は、日本海沿岸東北自動車道建設事業に伴い、平成18(2006)年度に発掘調査した大館市野崎遺跡の発掘調査報告書である。調査内容については、すでにその一部を埋蔵文化財センタ一年報などによって公表されているが、本報告書を正式なものとする。
- 2 本書に使用した地図は、国土地理院発行の1/25,000『大館』及び国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所提供的1/1,000工事用図面である。
- 3 遺跡基本層位と基本土層中の土色の表記は、農林水産省水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帳』2003年版によった。
- 4 本書に使用した空中写真は、株式会社シン技術コンサルに撮影を委託したものである。
- 5 自然科学分析は、放射性炭素年代測定・樹種同定・テフラ分析をパリノ・サーヴェイ株式会社、製鉄関連遺物の保存処理を株式会社吉田生物研究所に委託した。
- 6 本書の執筆は第4章第1節、第2節の1及び第6章第1節を藤田賢哉が、他を袴田道郎が執筆し、編集はレイアウトを保坂麻実が行い袴田がまとめた。

## 凡　　例

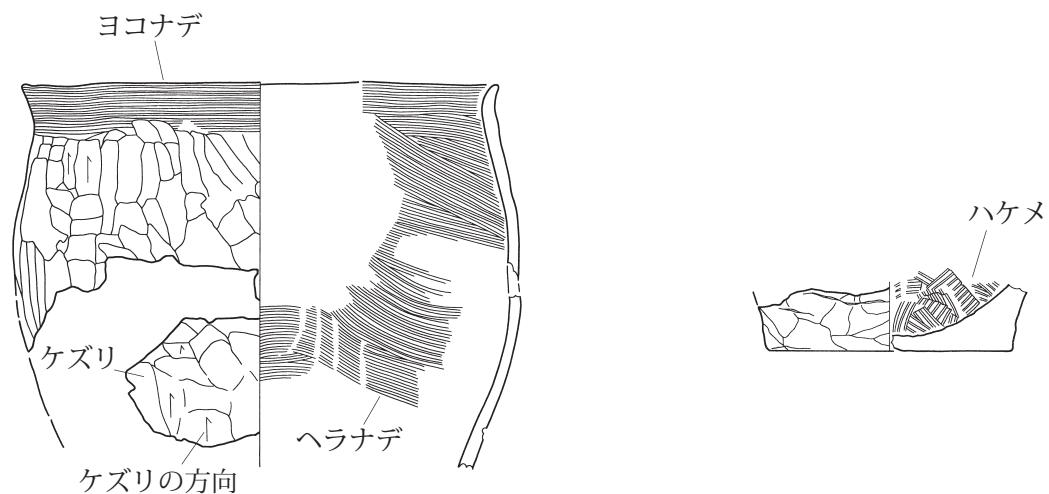
- 1 遺構番号は、その種類ごとに下記の略番号、検出順に通し番号を付したが、後に検討の結果、遺構ではないと判断したものは欠番とした。

S I ……豊穴住居跡	S A ……柱穴列	S B ……掘立柱建物跡
S K F ……フラスコ状土坑	S K I ……豊穴状遺構	S K P ……柱穴様ピット
S K ……土坑	S N ……焼土遺構	S D ……道路跡・溝跡
S R ……土器埋設遺構	S Q ……石器製作跡	
- 2 遺跡基本層位にはローマ数字を、遺構内層位には算用数字を使用した。
- 3 挿図中の遺物番号は、各挿図ごとに土器・石器を問わず通し番号を付した。

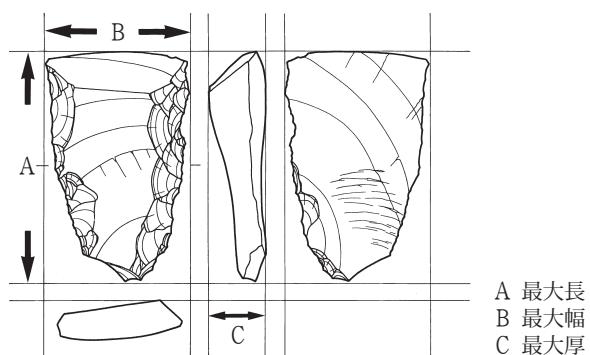
4 挿図に使用したスクリーントーンは、下記の通りである。



5 土師器の実測図に用いた調整の表現は下図の通りである。



6 石器の計測部位は下図の通りである。計測値の単位は長さ・幅・厚さがmm、重さがgである。



# 目 次

巻頭図版

序

例言・凡例

目次

挿図・表・図版目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査要項	1
第2章 遺跡の環境	2
第1節 遺跡の位置と立地	2
第2節 歴史的環境	4
第3章 発掘調査の概要	7
第1節 遺跡の概観	7
第2節 調査の方法	7
第3節 調査の経過	8
第4節 整理作業の方法と経過	9
第4章 調査の記録	10
第1節 基本層序	10
第2節 検出遺構と遺物	15
1 縄文時代の遺構と遺物	15
(1) 壇穴住居跡	15
(2) フラスコ状土坑	15
(3) 土器埋設遺構	25
(4) 石器製作跡	25
(5) 土坑	27
(6) 焼土遺構	33
(7) 柱穴様ピット	34
(8) 遺構外出土遺物	38
2 平安時代の遺構と遺物	49
(1) 壇穴住居跡	49
(2) 道路跡	63
(3) 溝跡	66
(4) 土坑	74
(5) 柱穴様ピット	79
(6) 遺構外出土遺物	82

3 中世の遺構と遺物	86
(1) 掘立柱建物跡と付隨する柱穴列跡	86
(2) 穫穴状遺構	93
4 時代不明の遺構と遺物	98
(1) 焼土遺構	98
(2) 土坑	99
(3) 柱穴様ピット	102
第5章 自然科学的分析	108
第1節 放射性炭素年代測定、樹種同定	108
第2節 リン・カルシウム分析	111
第3節 テフラ分析	112
第6章 まとめ	117
図版	
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図	2
第2図 地形区分図	3
第3図 野崎遺跡と周辺遺跡位置図	5
第4図 調査区基本土層作成地点	10
第5図 調査区基本土層図・地形図	11・12
第6図 グリッド・遺構配置図	13・14
第7図 S I 143 穫穴住居跡	16
第8図 S I 143 穫穴住居跡遺物出土位置図・出土遺物	17
第9図 S K F 144 フラスコ状土坑・遺物出土位置図	19
第10図 S K F 144 フラスコ状土坑出土遺物(1)	20
第11図 S K F 144 フラスコ状土坑出土遺物(2)	21
第12図 S K F 144 フラスコ状土坑出土遺物(3)	22
第13図 S K F 144 フラスコ状土坑出土遺物(4)	23
第14図 S K F 146 フラスコ状土坑・出土遺物	24
第15図 S R 31・45 土器埋設遺構・埋設土器	26
第16図 S Q 44 石器製作跡・遺物出土位置図	28
第17図 S Q 44 石器製作跡出土遺物(1)	29
第18図 S Q 44 石器製作跡出土遺物(2)	30
第19図 S K 127・128・165・166・257・382・411・460 土坑	32
第20図 S N 162・163 焼土遺構	33
第21図 柱穴様ピット(縄文1)	34

第22図 柱穴様ピット（縄文2）	35
第23図 柱穴様ピット（縄文3）	36
第24図 柱穴様ピット（縄文4）	37
第25図 遺構外出土遺物（縄文1）	40
第26図 遺構外出土遺物（縄文2）	41
第27図 遺構外出土遺物（縄文3）	42
第28図 遺構外出土遺物（縄文4）	43
第29図 遺構外出土遺物（縄文5）	44
第30図 遺構外出土遺物（縄文6）	45
第31図 遺構外出土遺物（縄文7）	46
第32図 遺構外出土遺物（縄文8）	47
第33図 S I01豎穴住居跡	51
第34図 S I01・02豎穴住居跡カマド	52
第35図 S I01豎穴住居跡出土遺物	53
第36図 S I02豎穴住居跡	55
第37図 S I03豎穴住居跡	57・58
第38図 S I03豎穴住居跡カマド・遺物出土位置図	59・60
第39図 S I03豎穴住居跡出土遺物（1）	61
第40図 S I03豎穴住居跡出土遺物（2）	62
第41図 SD 76道路跡	64
第42図 SD 76道路跡位置図・出土遺物	65
第43図 SD 04・09・10・17・41・42溝跡	67
第44図 SD 11溝跡	69
第45図 SD 29・30溝跡	70
第46図 SD 29溝跡出土遺物	71
第47図 SD 60・61・123溝跡	73
第48図 SD 130溝跡	75
第49図 SD 135・180溝跡	76
第50図 SK 46・53・62・124・211土坑	78
第51図 柱穴様ピット（平安1）	80
第52図 柱穴様ピット（平安2）	81
第53図 遺構外出土遺物（平安1）	83
第54図 遺構外出土遺物（平安2）	84
第55図 遺構外出土遺物（平安3）	85
第56図 SB 200掘立柱建物跡とSA 173・179柱穴列跡	89・90
第57図 SB 251掘立柱建物跡とSA 252・253・521柱穴列跡	91・92
第58図 SK I 13豎穴状遺構	94

第59図	S K I 13堅穴状遺構炭化材焼土分布図	95
第60図	S K I 18堅穴状遺構	97
第61図	S N 26・71焼土遺構	99
第62図	S K 119・138・164・255・259・508土坑	101
第63図	柱穴様ピット(時代不明1)	103
第64図	柱穴様ピット(時代不明2)	104
第65図	柱穴様ピット(時代不明3)	105
第66図	柱穴様ピット(時代不明4)	106
第67図	柱穴様ピット(時代不明5)	107
第68図	縄文時代の遺構配置図	118
第69図	平安時代の遺構配置図	119
第70図	中世の遺構配置図	121

## 表 目 次

第1表	野崎遺跡周辺の遺跡一覧	6
第2表	S I 143 柱穴計測一覧表	17
第3表	S I 143 出土石器計測一覧表	17
第4表	S K F 144 出土縄文土器観察表(1)	20
第5表	S K F 144 出土縄文土器観察表(2)	21
第6表	S K F 144 出土石器計測一覧表	23
第7表	S K F 146 出土石器計測一覧表	24
第8表	S R 31・45出土縄文土器観察表	26
第9表	S Q 44出土石器計測一覧表	30
第10表	柱穴様ピット計測一覧表(縄文)	37
第11表	遺構外出土縄文土器観察表	41
第12表	遺構外出土石器計測一覧表	48
第13表	S I 01柱穴計測一覧表	51
第14表	S I 01出土土器観察表	53
第15表	S I 01出土鉄製品観察表	53
第16表	S I 02柱穴計測一覧表	55
第17表	S I 03出土土器観察表	62
第18表	S I 03出土石製品計測一覧表	62
第19表	S D 76出土土器観察表	65
第20表	S D 29出土土器観察表	71
第21表	柱穴様ピット計測一覧表(平安)	79
第22表	遺構外出土土器観察表	85
第23表	遺構外出土鉄製品観察表	85

第24表	S B 200・S A 173・179柱穴計測一覧表	90
第25表	S B 251・S A 252・253・521柱穴計測一覧表	92
第26表	S K I 13柱穴計測一覧表	94
第27表	S K I 18柱穴計測一覧表	97
第28表	柱穴様ピット計測一覧表(時代不明)	102
第29表	放射性炭素年代測定・樹種同定結果	110
第30表	暦年較正結果	111
第31表	土壤理化学分析結果	112
第32表	テフラ分析結果	114

## 図版目次

- 卷頭図版 1 野崎遺跡遠景
- 卷頭図版 2 調査区全景
- 図版 1 野崎遺跡全景 調査区近景
- 図版 2 調査前風景 基本土層
- 図版 3 S I 143 完掘 S I 143 剥片出土状況 S I 143 石器出土状況
- 図版 4 S K F 144 遺物出土状況 S K F 146 土層断面
- 図版 5 S R 31 S R 45
- 図版 6 S Q 44石器出土状況 S K 127 完掘 S K 128土層断面 S K 166 完掘  
S K 411 土層断面
- 図版 7 S I 01・02完掘 S I 01確認状況 S I 01カマド残存状況  
S I 02カマド確認状況 S I 01・02カマド位置関係
- 図版 8 S I 03完掘 S I 03カマド残存状況
- 図版 9 S D 04完掘 S D 41・42完掘 S D 09確認 S D 10完掘 S D 123 完掘
- 図版10 S D 29・30完掘 S D 29遺物出土状況 S D 11 完掘
- 図版11 S D 130 完掘 S D 76道跡
- 図版12 S B 200、S A 173・179 S B 251、S A 252・253・521
- 図版13 S K I 13炭化材検出状況 S K I 13屋根材堆積状況
- 図版14 S K I 18完掘 S K 46土層断面 S K 53確認状況 S K 62土層断面 S K 211 完掘
- 図版15 S K F 144・146 出土土器・石器
- 図版16 遺構外出土石器
- 図版17 S Q 44出土石器 遺構外出土土器(縄文早期)
- 図版18 遺構外出土土器(縄文前～中期) 遺構外出土石器
- 図版19 S I 01出土土器(支脚) S I 01出土鉄製品(刀子)
- 図版20 S I 03出土土器 遺構外出土土器
- 図版21 テフラ・炭化材

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経過

日本海沿岸東北自動車道は、新潟市から青森市へと至る日本海沿岸の高速交通体系を改善し、沿線諸地域の生産活動や情報・物資の交通を促進すべく計画された、総延長340kmの高速道路である。

秋田県内では、象潟仁賀保道路及び仁賀保本荘道路、秋田外環状道路、琴丘能代道路、大館西道路を連結し、小坂ジャンクション（J.C.T）で東北自動車道に接続する。平成9年に日本海沿岸東北自動車道として路線指定され、このうち秋田南インターチェンジ（I.C）～昭和・男鹿半島I.C間は同年に開通。平成13年には河辺I.C～秋田空港I.Cが開通し、平成14年には、琴丘・森岳I.C～能代南I.C間、昭和・男鹿半島I.C～琴丘・森岳I.C間、岩城I.C～秋田空港I.C間、平成18年には能代南I.C～能代東I.C間がそれぞれ開通している。

野崎遺跡が所在する大館北I.C～小坂J.C.T間については、平成8年12月に整備計画区間に設定され、平成11年1月の実施計画認可を経て、平成11年3月に路線が発表された。これを受け秋田県教育委員会は、平成14～15年に大館北I.C～小坂J.C.T間の遺跡分布調査を行い、その結果、野崎遺跡が確認調査の対象となった。確認調査は路線内の7,500m<sup>2</sup>を対象に平成16年11月15日から26日にかけて実施され、その結果、縄文時代と古代の集落跡であることが判明し工事区域内の5,400m<sup>2</sup>について発掘調査が必要であることがわかった。発掘調査は平成18年6月から10月にかけて5,400m<sup>2</sup>を対象に行った。

## 第2節 調査要項

遺跡名	野崎遺跡（のざきいせき）	
遺跡略号	2NZ	
遺跡所在地	秋田県大館市商人留字野崎51-8外	
調査期間	平成18年6月6日～10月31日	
調査面積	5,400m <sup>2</sup>	
調査主体者	秋田県教育委員会	
調査担当者	藤田賢哉（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課 学芸主事）	
	山村 剛（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課 学芸主事）	
	袴田道郎（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課 学芸主事）	
	菊地 亮（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課 調査・研究員）	
	平野左近（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課 調査・研究員）	
	保坂麻実（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課 調査・研究員）	
総務担当者	時田慎一（秋田県埋蔵文化財センター中央調査課 副主幹）	
調査協力機関	国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所 大館市教育委員会	

## 第2章 遺跡の環境

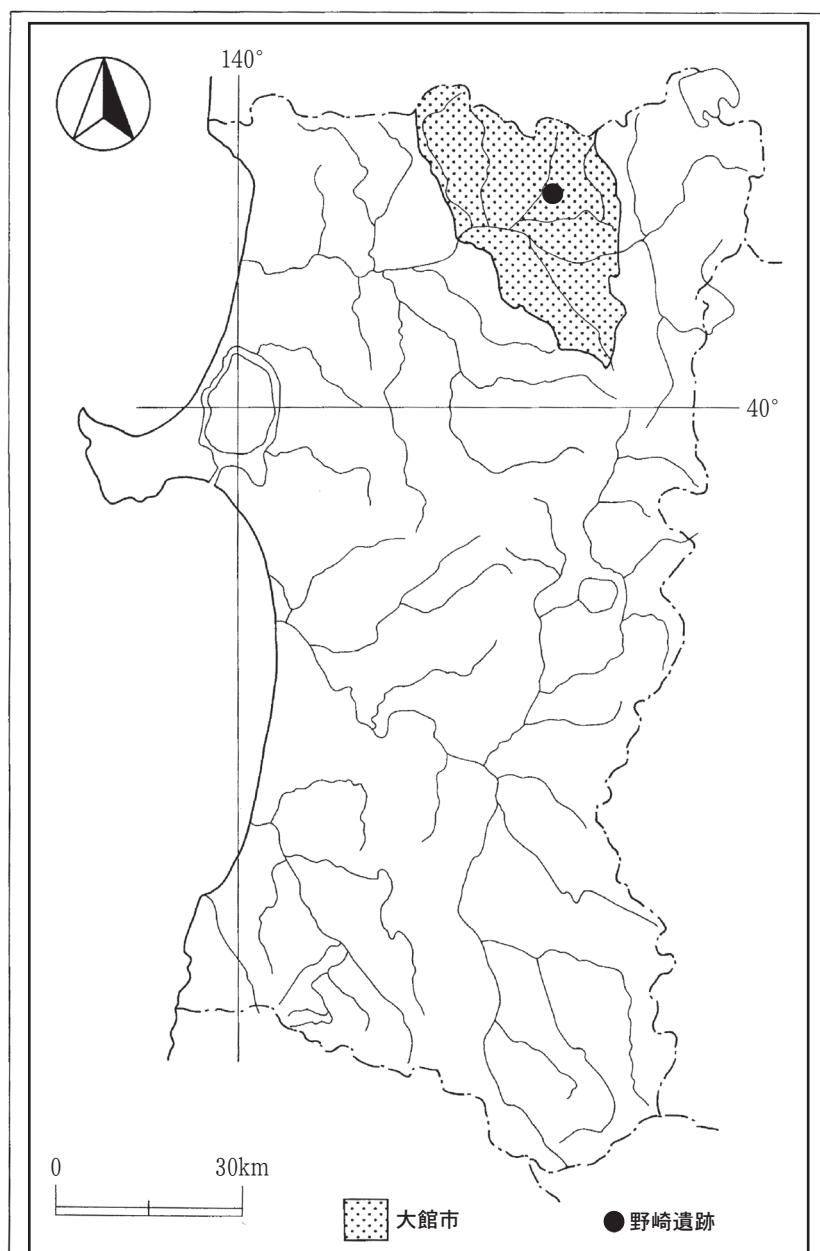
### 第1節 遺跡の位置と立地

野崎遺跡が所在する大館市は、秋田県の北端に位置する（第1図）。市域は、北を青森県南津軽郡大鰐町・碇ヶ関村、東を鹿角市と鹿角郡小坂町、南を北秋田市、西を山本郡藤里町に接しており、その面積は平成17年の市町村合併により913.70km<sup>2</sup>になっている。

大館市の地形は、大館盆地を囲む山地、山麓沿いに分布する扇状地、盆地内を流れる川沿いに広がる沖積低地からなっている（第2図）。大館盆地は断層により形成された陥没盆地で、盆地の東縁や南西縁ではこれを裏付ける断層崖が現在でも確認できる。盆地をとりまく山地は、北西側に白神山地、

東側に高森山地、南西側には摩当山地がある。市街地に近いところでは、盆地の東側に鳳凰山（520 m）、秋葉山（329 m）、獅子ヶ森（224 m）があり、西側には大山（378 m）を中心とする花岡地区の山地が南北に伸びている。盆地内を流れる主要河川は、県北第一の主要河川である米代川とその支流である長木川、下内川である。米代川は岩手県二戸郡安代町の源流から鹿角市を経て、秋田県北部を横断し日本海へ注ぐ。

野崎遺跡は、大館市市街地北部の商人留地区に所在し、JR奥羽本線の大館駅から北東へ約4kmに位置する（第3図）。遺跡周辺の地形は、西を流れる下内川に向かって城ヶ森麓の橋桁集落付近から続く河岸段丘のなか、南西方向にのびる舌状台地である。遺跡の立地点は、標高76m～82mの、舌状台地の南端部である。



第1図 遺跡位置図



ア 中起伏山地（起伏量400～200m）  
 イ 小起伏山地（起伏量200m未満）

## I 山 地

I a 大山山地	I b 比内山地	I c 城ヶ森山地
I d 高森山地	I e 高倉山山地	I f 羽保屋山山地
I g 高地山山地	I h 中央山地	I i 松森山地
I j 合窪山山地	I k 三哲山山地	I l 合津山地
I m 尾去沢山地		

## II 丘 陵 地

II a 比内丘陵地	II b 味噌内丘陵地	II c 小坂丘陵地
------------	-------------	------------

## III 台地、低地

III a 大館盆地	(1) 大館段丘地	(2) 長木川、下内川低地
	(3) 米代川低地	(4) 扉川、引欠川低地
III b 十二所先行谷低地	III c 長木川峡谷低地	
III d 元山段丘地	III e 小坂川谷低地	

● 野崎遺跡

第2図 地形区分図

## 第2節 歴史的環境

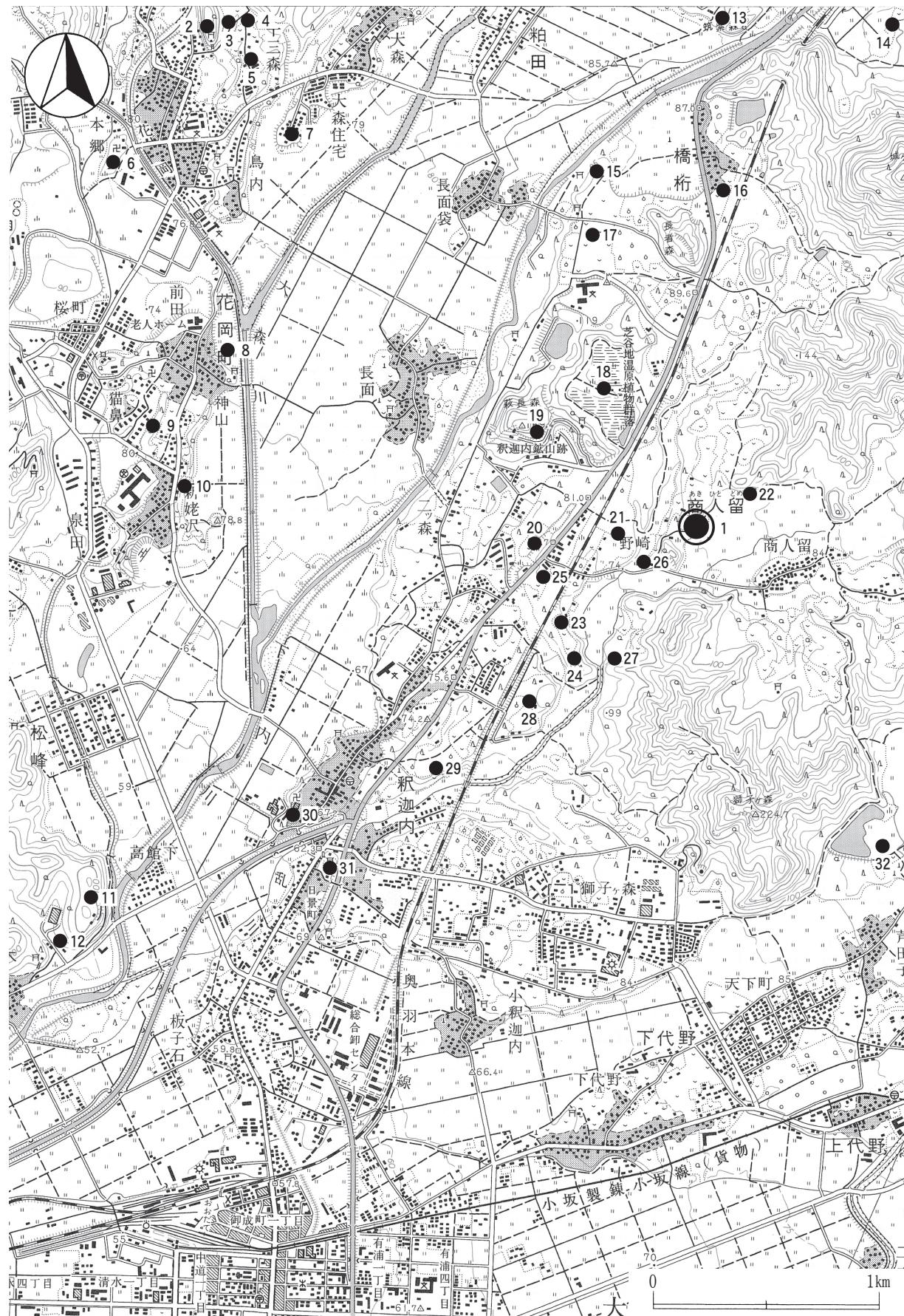
大館市ではこれまでに、旧石器時代から中、近世まで多くの遺跡が発見されている。米代川とその支流によって形成された河岸段丘や、低丘陵地上に多く分布している。第3図の野崎遺跡と周辺遺跡位置図は大館市市街地北部に位置する東西4km、南北5.86kmの地域である。ここでは、本地域の遺跡を中心に概観する。

大館市内で確認されている旧石器時代の遺跡には松木高館平遺跡（12）があり、大型の石刃が出土している。この時代の遺跡は十和田火山の火碎流に覆われていると思われ、現在唯一の旧石器時代の遺跡である。縄文時代の遺跡は数多く、早期中葉以降の遺跡が見つかっている。早期の代表的な遺跡には根下戸道下遺跡や五輪台集落付近にある鳶ヶ長根IV遺跡があり、貝殻文を施した土器が出土している。また、本遺跡のすぐ西隣にある坂下II遺跡（26）においても早期の遺構、遺物が出土している。前期の代表的な遺跡には、上ノ山I遺跡や池内遺跡があり、前期中葉～末葉にかけての円筒下層式土器が出土した大集落がある。大量の土器、石器の他に豊富な種類の動植物遺存体が出土している。後期の遺跡には、寒沢遺跡や萩峠遺跡の集落跡がある。寒沢遺跡では後期の豊富なバリエーションの土器が出土している。このほかに塚ノ下遺跡から目に天然アスファルトが埋め込まれた土偶が、萩ノ台II遺跡から十腰内I・II式土器に伴って翡翠の大珠が3点出土している。晚期では、家ノ後遺跡の土坑墓群がある。本遺跡の東隣の谷地中遺跡も晚期中葉の貯蔵場所・墓域である。第3図の中では根井下遺跡（3－中期）、十三森遺跡（5－前・晚期）、橋桁遺跡（16－後・晚期）、福館・橋桁野遺跡（17－前～晚期）、狼穴遺跡（21－前期）、狼穴II遺跡（23－前期）、狼穴III遺跡（24－早～後期）、芦田子上岱遺跡（32－前期）が縄文時代の遺跡である。

歴史史料に大館に関する記載が最初に見られるのは、元慶二年（878年）に勃発した「元慶の乱」についての記事中である。元慶の乱は、秋田城介良岑近の悪政に反発した雄物川以北の住民が蜂起した事件で、当時の秋田郡内の各ムラが独立を要求するまでに発展したが、最後には政治的懐柔策により鎮定された。この独立を要求したムラの中に、当時の大館地方を示す「火内」の文字が記されている。11世紀代にはそういった流れの中から、安倍・清原・藤原氏が台頭してくる。大館もこのような有力者の支配に組み込まれていくと考えられる。

大館市では多くの平安時代の遺跡も確認されている。時期は9世紀後半～10世紀代のものが多く、第3図に示した範囲内では、大館野遺跡（13）や、釈迦内中台I遺跡（28）が10世紀代の大きな集落跡であることが分かっている。大館野遺跡では、多くの竪穴住居跡や掘立柱建物跡の他に道路跡と思われる溝や井戸、製鉄炉が見つかっており、計画的に集落が形成されているのが分かる。釈迦内中台I遺跡では一辺10mを越える50畳敷き規模の大型住居をはじめ、多くの竪穴住居跡が検出されている。また、本遺跡の周辺には、同じ平安時代の遺跡である狼穴遺跡（21）、狼穴II遺跡（23）、狼穴III遺跡（24）、狼穴IV遺跡（25）、坂下II遺跡（26）が隣接するように分布している。

中世の遺跡も、羽州街道の大館中心街寄りには釈迦内館遺跡（31）がある。青森方面には本遺跡と同じ下内川右岸段丘上に、総門や山門、仏殿など宗教施設と考えられる建物跡が検出された矢立廃寺跡や空堀があった白沢古館遺跡（14）がある。



第3図 野崎遺跡と周辺遺跡位置図

第1表 野崎遺跡周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	野崎	縄文・平安時代・中世	17	福館・橋桁野	縄文・平安時代
2	本郷下	縄文時代	18	芝谷地湿原	天然記念物
3	根井下	縄文時代	19	芝谷地	縄文時代
4	豆岱	縄文時代	20	二ッ森	縄文・弥生時代
5	十三森	縄文・平安時代	21	狼穴	縄文・平安時代
6	七ツ館	縄文時代	22	谷地中	縄文時代
7	大森	縄文時代	23	狼穴Ⅱ	縄文・平安時代
8	神山	平安時代	24	狼穴Ⅲ	平安時代
9	花岡城	中世	25	狼穴Ⅳ	縄文・平安時代
10	神山下	平安時代	26	坂下Ⅱ	縄文・平安時代
11	高館	中世	27	坂下Ⅰ	
12	松木高館平	旧石器	28	积迦内中台Ⅰ	平安時代
13	大館野	平安時代	29	积迦内中台Ⅱ	平安時代
14	白沢古館	平安時代・中世	30	积迦内古館	中世
15	福館	中世	31	积迦内館	平安時代・中世
16	橋桁	縄文時代	32	芦田子上岱	縄文・平安時代

## 引用・参考文献

秋田県『土地分類基本調査 大館』 1986（昭和61）年

秋田県教育委員会『秋田県遺跡地図（県北版）』 2006（平成18）年

秋田県教育委員会『秋田県の中世城館』 秋田県文化財調査報告書第86集 1981（昭和56）年

秋田県教育委員会『根下戸道下遺跡』 秋田県文化財調査報告書第297集 2000（平成12）年

秋田県教育委員会『根下戸Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡』 秋田県文化財調査報告書第330集 2001（平成13）年

秋田県教育委員会『狼穴Ⅳ遺跡』 秋田県文化財調査報告書第391集 2005（平成17）年

秋田県教育委員会『田ノ沢山遺跡・谷地中遺跡』 秋田県文化財調査報告書第404集 2005（平成17）年

大館市史編纂委員会『大館市史第一巻』 1979（昭和54）年

大館市史編纂委員会『大館の歴史』 1992（平成4）年